



もみじ・あざみは、滋賀県南部の湖南市石部にある施設です。近江学園の流れを汲み1953年につくられた「あざみ寮」から始まりまし。現在のはもみじに43名、あざみに25名が住まい、日々のしごとと暮らしをつくりあげています。

人とつむぎ、織りなす日々のなかで 高齢期の発達

第3回 わたしも元気です

先月号のナツコさんは、老いてきた自分の状況とどう向き合うべきか悩んでいます。高齢期を迎え、暮らしのなかでむずかしいことが増えてきたとしても、ナツコさん自身が自分の現状に対して時間をかけて受け止め、できることを考えられてこそ、高齢期の穏やかで豊かな日々をつくることができるとは、老いの現状を心配する周りが行動を控えることばかり求めることなく、ナツコさんが自分の変化を理解して、向き合うことができる具体的な学びの機会が求められます。

ナツコさんが見せる焦りや不満は、老いていく自分と向き合っていくために、大切な悩みであり表現です。友だちのユミコさんや世話をしていたサトコさんをはじめ、共に暮らす人たちとかかわりながら共に学べば、自分の悩みと表現をとらえなおしていくはず。そして、努力を重ね、周りにいる人のためにがんばってきたナツコさんの悩む姿そのものが、

書いたり、編み物をしてすごしています。

最近、電話でユミコさんに、ご自身の暮らしの様子やナツコさんのことを尋ねてみました。ユミコさんは、昨年お母さんが亡くなったこと、そのため年賀状が出せなかったことを話し、施設内にあるお地蔵のところで祈っていると教えてくれました。そして、ナツコさんについて、「私が一緒に散歩に行けたらいいんだけど、一緒に転んだら怖いから」と、職員と散歩していると話しました。骨折するまで、ナツコさんはユミコさんやサトコさんと散歩を楽しんでいました。一緒に散歩に行きたい思いをナツコさんはユミコさんに話しています。友だちとして、ナツコさんの思いに寄り添いたい思いをもちながらも、もしものことを考えて自分にできること、できないことを考えようとしていることがわかります。職員からの説明もあつてのことですが、自分の状況をとりえて、ユミコさん自身が行動を選んでいきます。ナツコさんの思いを受け止めながら、ユミコさんは老いによる変化や付き合い方を少しずつ学んでいるのだと感じます。

自分の思いと他者への思い

先ほどの電話のあと、1ヵ月くらい経ってからユミコさんから手紙が届きました。

「ちゃんさん お元気ですか。わたしも元気です。こどもたちも おおきくなりましたか。とうい（遠い）けれど たくさん おはなしを したいと おもいます。そちらのほうは さくらの おはなは さきましたか。わたしの おへや



張 貞京

ちゃん ちよんきょん／京都文教短期大学准教授。共著に『保育者のためのコミュニケーション・ワークブック』（ナカニシヤ出版）。

近くで見守る人たちにとって学びとなっています。今回は、ナツコさんの友だちであるユミコさんの話からみていきます。

友だちの老いと自分

ナツコさんが手紙の中で、自分を助けると書いていたユミコさんは、来年70歳になります。県の施設対抗卓球大会で優勝したことがあるほど、健康的な印象が強く、いつも朗らかな笑顔を見せる人です。友だちからは、一緒に外出したい、相談したい人として、ユミコさんの名前をあげる人が多いくらい、信頼される人でもあります。

ナツコさんが一緒に過ごしている時に、不満を漏らしていても、ユミコさんがなにかを言い返したり、言い聞かせたりすることはありませんし、手元の作業を続けながら、穏やかにふんふんと聞いています。しばらくすると、ナツコさんも落ち着いて手元の作業に集中していき、いつも一緒に手紙を

から さくらの おはなが きれいに さきましたので いつも みとれているのです。また ゆくり（ゆつくり）と りょうに きたときに おはなしを しましうね。ちゃんさんも おうちで ゆくり（ゆつくり）しているのですか。わたしは おりもののおしごとや あみものや とらんぶあそびも やっています。しよくいんと りょうせいさんも お元気にして くらしています。わたしは ころなが なくなったら たくさん おてがみを かくようにします。おちぞうさん（お地蔵さん）の ところでおまいりをしてるのです。ぶらんこにも のつています。それまで お元気でね。（4月1日）さようなら ユミコ」

しごとに取り組み、余暇時間を楽しむユミコさんの姿や、私が知っていたがらうと思う職員や友だちのことまで、穏やかな日々を知らせています。近況を知らせる手紙ですが、相手の近況を尋ねつつ、自分の近況を具体的に書き伝えていきます。自分と相手の共通すること、異なることを考えて書くとともに、他者に思いをはせる、実に豊かな内容と書き方をしています。

この手紙にナツコさんの話は書かれていませんが、ナツコさんの手紙も同封されていたので、一緒に書いていたのでしょう。高齢になっていくユミコさんは、手紙やナツコさんとかかわり方でみられるように、他者とともに暮らすなかで他者の思いへの気づきを重ねているのです。そんなユミコさんが周りから信頼されるのも納得ですが、はじめから人との関係で相手の思いを大切に、表現することが得意だったわ